

2021年（令和三年）

10月15日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

9/30～10/6のNYMEX・WTI先物市場は、75.03～78.93ドルの範囲で推移した。

10月7日は、売りが先行したものの、ロシアが天然ガス相場を安定させるほど供給を増やせるのか不透明との見方や、米政府の戦略備蓄放出も当面先になるとの観測から、暖房用燃料の需要拡大期に原油供給が追いつかなくなる可能性が改めて意識され、11月限の終値は前日比0.87ドル高の78.30ドルで取引を終えた。

週末8日は、新型コロナウイルス禍で低迷した景気の回復に伴うエネルギー需給逼迫への警戒感が強まる中、続伸し、11月限の終値は前日比1.05ドル高の79.35ドル。

なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比5基増の433基となった。

週明け11日は、暖房用燃料の需要が高まる冬場にかけてエネルギー需給のひっ迫が続くとの見方から、一時は82.18ドルと2014年10月以来、約7年ぶりの高値を更新した。11月限の終値は前日比1.17ドル高の80.52ドルで、3営業日続伸した。

12日は、世界的なエネルギー供給不足懸念を背景に買われる流れが続き、4営業日続伸し、11月限の終値は前日比0.12ドル高の80.64ドル。

13日は、エネルギー需要の鈍化懸念に圧迫され、5営業日ぶりに反落し、11月限の終値は前日比0.20ドル安の80.44ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（11月渡し）は、9月30日～10月6日の間、75.80～80.70ドルの

範囲で推移した。10月7日79.00ドル、8日81.00ドル、11日81.40ドル、12日81.50ドル、13日81.30ドルで推移した。

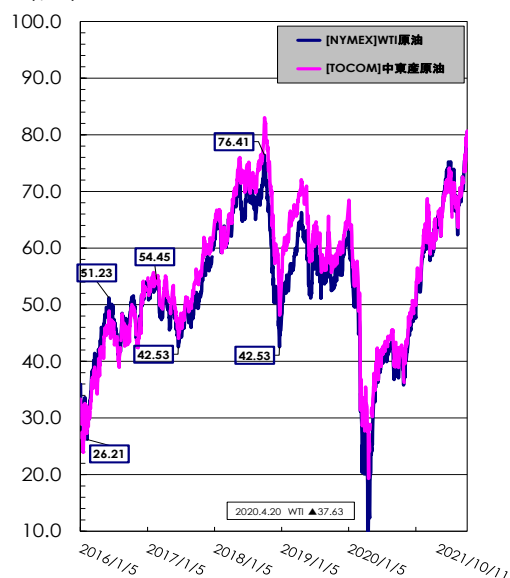
為替は9月30日～10月6日の間、110.91～111.92円の範囲で推移した。10月7日111.40円、8日111.73円、11日112.30円、12日113.50円、13日113.49円で推移した。

財務省が10月7日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、9月中旬の原油輸入平均CIF価格は、50,832円/klで、前旬比227円安、ドル建て73.50ドルで前旬比0.44ドル安、為替レートは1ドル/109.95円。

そのような中で、10月11日時点の小売価格は、ガソリンが前週（10月4日）比2.1円の値上がり、軽油は同2.0円の値上がり、灯油は同31円の値上がり（18㍲ベース）だった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がりだった。この週（10月第2週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比2.5～3.0円の値上げとなった模様。

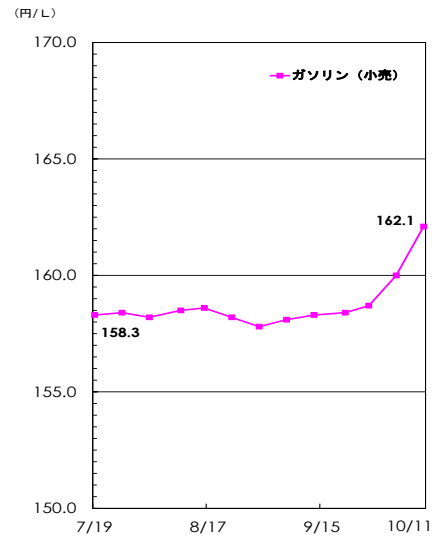
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/3 ~ 10/9	2,744	▲ 18	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	71.3	▲ 0.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/9	9,728	▲ 374	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	10/11	80.69	▲ 5.12	▲ 38.9
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/11	80.52	▲ 2.90	▲ 41.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	73.50	▼ -0.44	▲ 27.25
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	50,832	▼ -227	▲ 20,007
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.95	▼ -0.16	▼ -4.00
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/11	113.30	▼ -1.31	▼ -6.64

(\$/b)



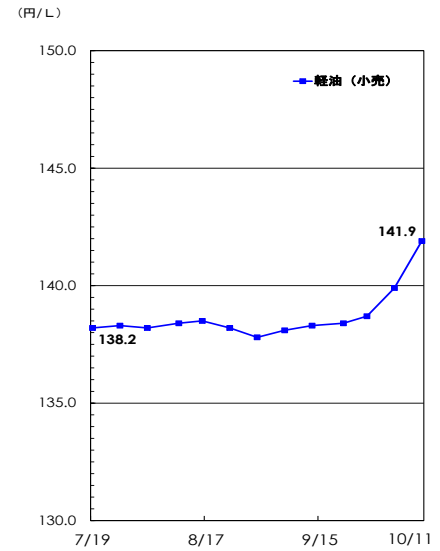
		(単位：千kl、円/%)			
ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/3 ~ 10/9	823 ▼ -16	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	758 ▼ -28	▲ -	
	輸出	"	169 ▲ 28	▲ -	
	在庫	10/9	1,501 ▼ -104	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/5 ~ 10/11	72.1 ▲ 2.6	▲ 29.5	
	先物 [期近物/終値]	10/5 ~ 10/11	72.1 ▲ 2.7	▲ 32.6	
	(TOCOM/中部)	10/11	72.8 ▲ 2.8	▲ 31.7	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	162.1 ▲ 2.1	▲ 28.0	

※業転、先物価格は税抜き価格

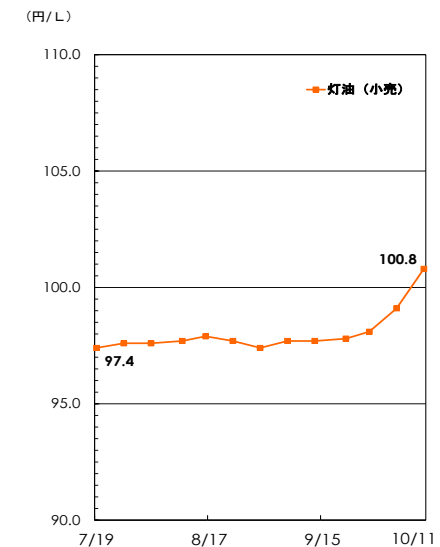


		(単位：千kl、円/%)			
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/3 ~ 10/9	726 ▼ -14	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	620 ▲ 22	▲ -	
	輸出	"	185 ▲ 36	▲ -	
	在庫	10/9	1,461 ▼ -79	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/5 ~ 10/11	73.1 ▲ 1.9	▲ 27.9	
	先物 [期近物/終値]	10/5 ~ 10/11	74.7 ▲ 2.9	▲ 27.2	
	(TOCOM/中部)	10/11	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	141.9 ▲ 2.0	▲ 27.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



		(単位：千kl、円/%)			
灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/3 ~ 10/9	174 ▼ -33	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	115 ▼ -38	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	10/9	2,598 ▲ 59	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/5 ~ 10/11	73.0 ▲ 2.6	▲ 28.0	
	先物 [期近物/終値]	10/5 ~ 10/11	72.5 ▲ 4.5	▲ 29.9	
	(TOCOM/中部)	10/11	75.0 ▲ 6.5	▲ 31.0	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	100.8 ▲ 1.7	▲ 20.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月13日のNYMEXのWTI先物原油は、5営業日ぶりに反落した。米労働省が朝方発表した9月の消費者物価指数(CPI)が前年同月比5.4%上昇し、インフレ高進観測を裏付ける内容であったこと等から、エネルギー需要は従来の想定ほど伸びない可能性があるとの警戒感が台頭した。半面、下げ幅は限られた。米エネルギー情報局(EIA)が13日、今年10月から22年3月にかけて暖房で天然ガスを利用する米家計の費用は前年の同時期と比較して3割増えるとの見通しを発表、原油を含めたエネルギー需要の逼迫が当面続くとの見方につながった。11月限の終値は前日比0.20ドル安の80.44

ドル、12月限の終値は0.10ドル安の79.82ドル。

EIAによると、10月11日時点のガソリンの小売価格は、前週比7.7セント値上がりの1ガロン3.267ドル(97.7円/ℓ)、ディーゼルは同10.9セント値上がりの3.586ドル(107.2円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年10月3日～10月9日に休止したトッパ能力は37.3万バレル/日で、前週に対して5.0万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は274.4万klと、前週に比べ1.8万kl増加。前年に対しては25.9万klの増加。トッパ稼働率は71.3%と前週に対して0.5ポイントの増加、前年に対しては7.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。

ガソリン/2.0%減、ジェット/21.1%減、灯油/16.0%減、軽油/1.9%減、A重油/5.1%増、C重油/47.6%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は18.5万kl(前週比3.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で軽油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

前年比ではガソリン、軽油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンの出荷は75.8万kl(対前週3.6%減)と2週連続で減少した。

ジェット4.9万kl(対前週25.1%減)、灯油11.5万kl(対前週24.9%減)、軽油62.0万kl(対前週3.7%増)、A重油18.3万kl(対前週31.6%増)、C重油19.3万kl(対前週215.8%増)。

(単位: 千kl)

	今週 (10/3 ~ 10/9)	前週 (9/26 ~ 10/2)	前週比
ガソリン	758	786	▼ -28 (-4%)
ジェット燃料	49	65	▼ -16 (-25%)
灯油	115	153	▼ -38 (-25%)
軽油	620	598	▲ 22 (4%)
A重油	183	139	▲ 44 (32%)
C重油	193	61	▲ 132 (216%)
合 計	1,918	1,802	▲ 116 (6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月9日時点の在庫は、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはC重油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは150.1万kl、前週差10.4万kl減。前年に対しては38.7万kl少ない。

灯油は259.8万kl、前週差5.9万kl増。前年に対しては37.5万kl少ない。

軽油は146.1万kl、前週差7.9万kl減。前年に対しては11.8万kl少ない。

A重油は71.2万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては3.3万kl少ない。

C重油は191.0万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては9.6万kl多い。

(単位: 千kl)

	今週 (10/9)	前週 (10/2)	前週比
ガソリン	1,501	1,605	▼ -104 (-6%)
ジェット燃料	837	859	▼ -22 (-3%)
灯油	2,598	2,539	▲ 59 (2%)
軽油	1,461	1,540	▼ -79 (-5%)
A重油	712	723	▼ -11 (-2%)
C重油	1,910	1,951	▼ -41 (-2%)
合 計	9,019	9,217	▼ -198 (-2.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月5日～11日の指標原油価格は前週(9月28日～10月4日)比で値上がりし、為替レートは僅かな円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。

次週(10/14～20)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比2.5～3.0円の引き上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月5日～10月11日の製品スポット市況は、9月28日～10月4日平均と比べ全油種・全取引で値上がりした。

直近週(10/5～10/11)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/28～10/4)比で、ガソリンは2.6円の値上がり、灯油は2.6円の値上がり、軽油は1.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(10/5～10/11)に、前週(9/28～10/4)比で、ガソリンは2.5円の値上がり、灯油は3.1円の値上がり、軽油は2.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.7円の値上がり、灯油は4.5円の値上がり、軽油は2.9円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (10/5～10/11)	前週 (9/28～10/4)	前週比
	レギュラー	72.1	69.5	▲ 2.6
	灯油	73.0	70.4	▲ 2.6
	軽油	73.1	71.2	▲ 1.9

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	(期近物/終値) 〔平均〕	今週 (10/5～10/11)	前週 (9/28～10/4)	前週比
	レギュラー	72.1	69.4	▲ 2.7
	灯油	72.5	68.0	▲ 4.5
	軽油	74.7	71.8	▲ 2.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/5～10/11実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 2.6	▲ 2.7	▲ 2.6	
灯油	▲ 2.6	▲ 4.5	▲ 3.6	
軽油	▲ 1.9	▲ 2.9	▲ 2.4	
A重油	▲ 2.2			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(10月4日)比2.1円高の162.1円、軽油は同2.0円高の141.9円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで同31円高の1,814円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでは同1.7円高の100.8円)。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは47都道府県で、横ばい、値下がりとはともに対象がなかった。全国最安値は156.5円の岩手県(同1.4円高)、その次は、156.9円の宮城県(同3.2円高)、他方、最高値は170.4円の長崎県(同0.9円高)だった。最も値上がりしたのは同3.7円高の岡山県(158.5円)で、横ばい、値下がりとは対象がなかった。

今週(10月5日～11日)の指標原油価格は値上がりし、為替レートは僅かな円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。次週(10月14日～20日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比2.5～3.0円の引き上げとなった模様。次回調査時(10月18日)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(資工庁公表) 〔週動向〕		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格		今週 (10/11)	前週 (10/4)	前週比	直近高値	
	レギュラー	162.1	160.0	▲ 2.1	08/8/4	185.1
	灯油	100.8	99.1	▲ 1.7	08/8/11	132.1
	軽油	141.9	139.9	▲ 2.0	08/8/4	167.4

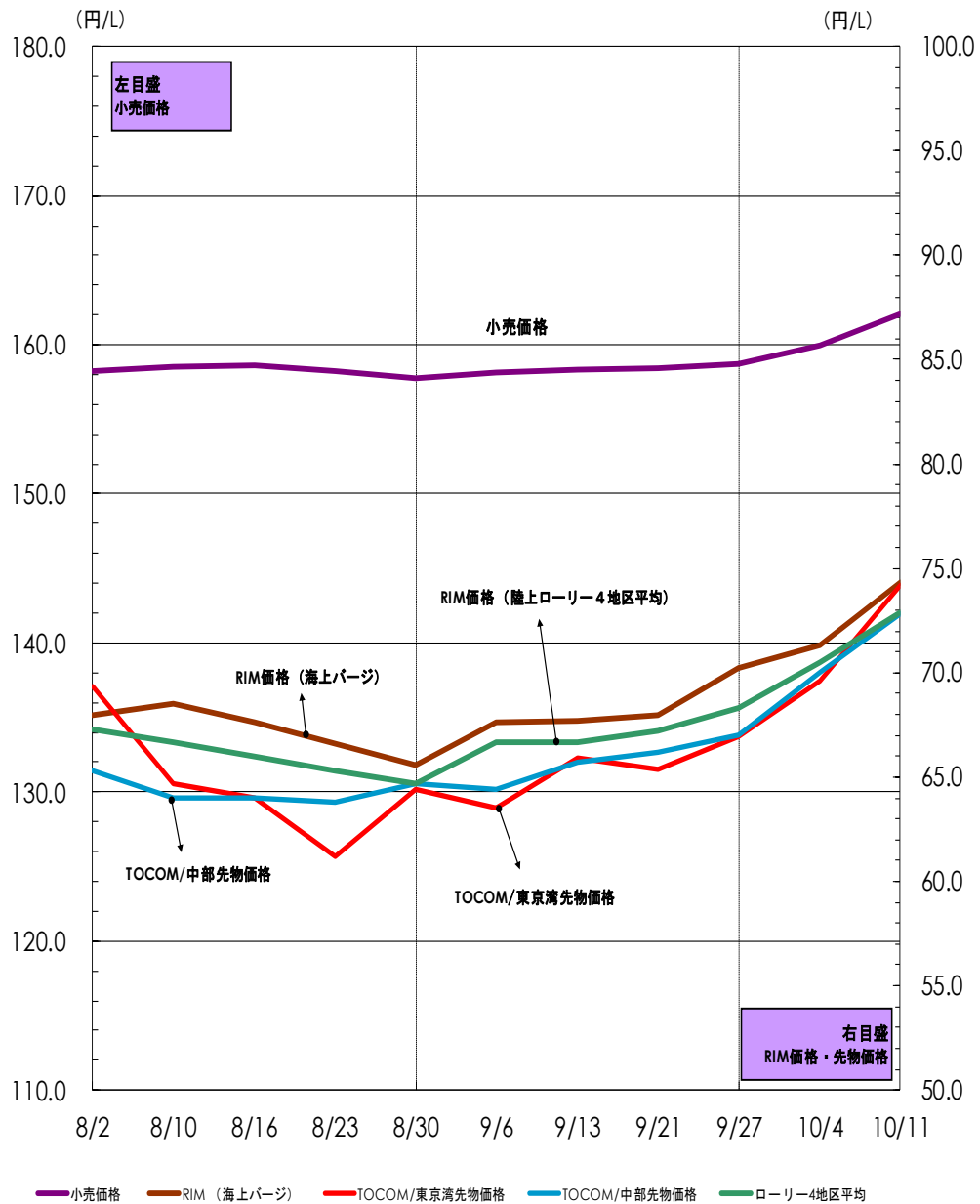
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/8/2 ~ 2021/10/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第28号)の公表は、10/22(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在)は、8月25日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。